

(様式第8号)

## 事業報告書 (平成 29 年度)

事業名 地域ですすめる多文化共生

団体名 結ぶ=YOU 多文化共生センターおかやま 担当者名 大倉美恵

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

第1回 7月7日（金）15：35～16：35 会場：清輝小学校内学童保育教室

内容：外国の言葉紹介・留学生と一緒に七夕飾りを作る

参加者：岡山外語学院留学生14名（トルコ、カンボジア、ネパール、スリランカ、ベトナム、オーストラリア（フィンランド）、フィリピン、ロシア 8カ国出身者）

杉の子児童：37名 他 計 53名

活動：

- 1、各テーブルに分かれて七夕飾りを作る



- 2、岡山外語学院は清輝小学校区にあることを児童に説明する

学区の地図で清輝小学校と岡山外語学院の位置を知る

- 3、出身国ごとに挨拶をして自己紹介をするのを聞く

①留学生が世界地図を使って、どこにあるのかを児童に尋ねると手を挙げて地図を指す

②それぞれの国のあいさつの言葉をうちわに書いて紹介

4. 終わった後に

留学生たちが児童の宿題を一緒にする

第2回 8月25日（金）15：35～16：35 会場：清輝児童センター

内容：清輝学区婦人会の指導のもとに杉の子学級の児童・留学生と一緒に盆踊りを体験する

参加者：岡山外語学院留学生14名（ベトナム、ミャンマー、スリランカ、ネパール、インドネシア 5カ国出身者）

杉の子児童：36名

婦人会：8名 前連合町内会長 1名 他 計 61名

活動：

- 1、講師である婦人会の人に名前を聞く

2、留学生の自己紹介を聞く



3、婦人会の方の盆踊りを見る

4、婦人会の方の盆踊りに習う



第3回 11月17日(金) 15:35~16:35 会場: 清輝諸学校学童保育教室

内容: 韓国文化を楽しむ

講師: サランAGIG (5名)

杉の子児童: 18名 他

計 26名

活動:

1、始まりの歌「コム セ マリ」

音楽に合わせて踊る (アイスブレイク)

2、自由遊び ①~④まで自分の好きな遊びに挑戦する

①カルタ・カード遊び

②タッチチギ

③カード作り

④書いてみよう、韓国の文字!

作ったカード



韓国の文字を書いてみる



(様式第8号)

3 絵本の読み聞かせ

4、終わりの歌 「コム セ マリ」

第4回 12月1日(金) 15:35~16:35 会場:清輝児童センター

内容:韓国文化を楽しむ

講師:サランAGIG(5名)

杉の子児童:12名 参観者:1名他 計 19名

1、始まりの歌「コム セ マリ」

音楽に合わせて踊る(アイスブレイク)

2、自由遊び ①~④まで自分の好きな遊びに挑戦する

①カード遊び

②ユンノリ

③クリスマスカード作り

④みよう!韓国の文字

ユンノリ



カード作りと韓国文字



第5回 2月9日(金) 15:35~16:35

内容:外国の本の読み聞かせ

講師:山陽大学留学生 4名

杉の子児童:8名 その他2名 計:14名

1、本日の講師の自己紹介

①どこの国の人かを当ててみる

②「こんにちは」を各国の言葉で聞き、言ってみる

2、ポーランドの本の読み聞かせを聞く

日本語⇒ポーランド語と少しずつ2カ国で本の読み聞かせを聞く

3、韓国語の本の読み聞かせを聞く

4、台湾の本の読み聞かせを聞く

5、それぞれの国での動物の鳴き声当てクイズ

6、それぞれの国のジャンケンで遊ぶ



2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ
<ul style="list-style-type: none"><li>○地域の中に暮らす多様な人達をつなぐこと</li><li>○自らの力を発揮する場面を作ること</li><li>○主体的な活動をする事</li><li>○多様な経験ができること</li><li>○子どもを中心として地域での気付きを生むこと</li></ul>
3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
<ul style="list-style-type: none"><li>○新しい地域連携の構築 地域の中で婦人会の会員活動（踊り）を初めて児童に指導してもらったが、婦人会の活動を児童や留学生に指導することにより婦人会の平素の活動が地域還元の良い機会となるとともに、地域でのつながり作りである関係性構築の一步となった。</li><li>○双方向性の内容 本年度は継続事業2年目であったが、外国の文化紹介から児童・留学生とが一緒に「日本文化」を知ることと共に楽しむことをとりいれることができた。多文化共生では外国への理解が中心と思われがちであるが、日本文化も一つの文化とし共有することも必要なことであり、継続事業であったために昨年の実績をもとにリクエストが生まれ、そこを組み入れて日本文化の共有体験という事業実施ができた。</li><li>○主体的活動の保証 本年度は主体的活動を保証するために、体を動かすことや工作など児童自らの活動が主体となるような内容を取り入れるよう体験を重視した。体験は言葉を超えてお互いに親しみを感じる良い教材だった。講座の後に留学生が児童の宿題を手伝ったり、児童が留学生に漢字を教える姿があった。このように同じ体験をしたことで心の交流が生まれた。</li><li>○学びに対する欲求への芽生え 昨年度の韓国版を経験した児童から、「また韓国のことを知りたい」という声があり本年度も韓国版を実施した。昨年の経験から児童自ら学びたいこと・体験したいことを要求できるようになった。特に韓国の言葉については児童から「もっと知りたい」という声からカード作り、という具体的な活動が生まれて韓国語表記体験ができた。</li><li>○講師の力量向上 昨年・本年度と同じ講師に事業を依頼したが、昨年度の経験を活かしての教材開発やプログラム内容、事業方法、昨年度を基にしたの更にブラッシュアップした内容など、講師としての力量向上ができた。韓国語（ハングル）の「あいうえお」表記を昨年教材として使ったが、本年度はそこから「カード作り」という新しい教材を工夫して取り入れることができた。</li><li>○子どもから地域への多文化共生の楽しみの波及 会場として、昨年度に引き続き清輝児童センターも何度かお借りしたが、「今日はどこの国の人ですか」「子どもが帰りに外国のジャンケンを教えてくださいました」「時間があつたら</li></ul>

私も参加したい」など、職員からの声が上がリ児童の活動を通じて清輝児童センターの職員にも外国文化への興味や気付きを持ってもらうことができた。また、迎えに来た保護者から「今日は何があったのですか」との問いかけがあったが、子どもの活動の家庭への波及の芽生えを感じる事ができた。

#### 4. 今後の課題と展望

○今年度は地域で町内会長よりの外国住民に関する聞き取りを実施したかったが、数人の町内会長に尋ねると学区内に暮らす外国人の実態は町内会でも把握しきれないことがわかった。例えばマンションやアパートの所有者に尋ねるなどの方法が必要だとの助言があった。さらにその方面へのアプローチも探っていきたい。

○今年度は学区の婦人会との連携ができたが1回に終わってしまった。継続して何度も連携することが必要であろう。

○子どもの活動で主体性を重視したが、それが家庭へ反映できているかどうかの検証ができなかったので今後そこを検証していきたい。

○講座の教材として「作る」ものを増やし、家庭や学校、地域に講座の成果の可視化を図ることで地域での多文化共生を更に進めたい。